学長プロジェクト３

安全・安心な都市・地域づくり

千葉商科大学人間社会学部学部長／教授
朝比奈　剛
ASAHINA Takeshi

プロフィール
一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学
主要な業績：
第4章「科学技術政策と教育政策」執筆（中本・宮崎編『現代アメリカ経済分析』日本評論社 ,2013 年）
「千葉商科大学人間社会学部のアクティブ･ラーニング」執筆（IDE 大学協会『IDE 現代の高等教育』2016 年7月号）
第4章「幼児期の不平等と効果的な公共政策による介入」翻訳（萩原伸次郎監修『2016 年米国経済白書』蒼天社出版 ,2017 年）

1　はじめに

原科学長就任後、「学長プロジェクト」[1]がスタートした。この学長プロジェクトは、社会の課題に向き合い、課題を解決し、社会に貢献する千葉商科大学の姿勢を示したものである。学長プロジェクトには、４つのプロジェクトがあり、本学の経済研究所の機関誌である『CUC View&Vision』の本号で、各プロジェクトの詳細が紹介されている。私が参加している学長プロジェクト３「安全・安心な都市・地域づくり」は、本学が日頃から、地域に開かれた、地域の交流の拠点として市民の皆様にご活用いただけるように、そして、万が一、災害が発生した際には、少しでも被害を抑えられるように、安心して避難していただけるように、活動を始めている。子どもから高齢者まで、そして、障がいのある方も、外国人の方も、みんなが安心して住めるまちづくりを進めるプロジェクトである。

さらに、本学が交流拠点・防災拠点となるだけでなく、本学の所在地である市川市国府台地区全体が地域の交流拠点・防災拠点となるように、国府台地区にある大学や病院と連携した取り組みを国府台コンソーシアムとして進めていく。

具体的な取り組みを紹介する前に、本学の地域との連携、地域への貢献を紹介していきたい。

現在、本学は創立100周年に向けた将来構想である“CUC　Vision　100”[2]で「日本で一番、地域、市民に役立つ大学となる」というビジョンを掲げている。そこでは、「地域の拠点大学として、地域の人々と『一緒に学び』、『相互にふれあい』、『協働で行なう』ことによって『地域が頼れる大学』、『地域とともに生きる大学』となります」と謳っている。

このような本学のビジョンは、100周年に向けた一過性のものではなく、長年積み重ねてきた地域連携の取り組みの積み重ねをベースにしたものである。

例えば、本学の地元自治体である市川市との連携を見ると、長年にわたって、様々な分野で連携をしてきたが、本学の創立80周年を機に、2008年に、市川市と本学は包括協定[3]を締結し、今日では、「ＩＣＴ」、「文化・国際」、「福祉・健康」、「環境」、「まちづくり・産業振興」、「災害」といった分野で、様々な地域連携を進めている。

また、本学の丸の内サテライトキャンパスでも、多くの方々にご参加いただけるという東京駅に近い立地

1　学長プロジェクトの概要については、以下の本学のホームページ http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/project/index.html　を参照のこと。
2　“CUC　Vision　100”については、本学の「将来構想　2014-2018」http://www.cuc.ac.jp/about_cuc/data/i 8 qio00000000rfh-att/plan2014-18.pdf　を参照のこと。
3　市川市との包括協定については、http://www.cuc.ac.jp/social_contribution/regionalalliances/index.html　を参照のこと。

条件を活かし、公開講座[4]を開催してきた。本プロジェクトでも、2017年８月26日に「地域交流の拠点としての大学～ The University DINING から始まる新潮流～」という公開講座を、12月16日には「千葉商科大学の地域連携と安全・安心のまちづくり」という公開講座を開催し、多くの方々にご参加いただき、有意義な意見交換を行うことができた。

この学長プロジェクト３「安全・安心な都市・地域づくり」には、地域の「交流拠点」としての取り組みと、「防災拠点」としての取り組みという、２つの大きなテーマがある。以下、順に紹介していきたいと思う。

2　地域の交流拠点としての大学

教育・研究の場である大学が、広く、地域、社会、市民のみなさまに開かれた場となるように、本学は、地域の方を対象とした多くの公開講座やイベントを地域の方と連携しながら行ってきた。

とくに、最近、キャンパス内に多くの市民の方の姿を見るようになってきたが、多くの市民の方が活用できる施設、参加できるイベントを紹介したい。

≪ The University DINING ≫

新しい学生食堂「The University DINING」が2015年にオープンし、おいしい食事、素敵な空間、メディアでの紹介などによって、多くの市民の方が食事をしに来ていただけるようになった。食堂だけでなく、キャンパス内で、小さなお子さんから高齢の方まで多くの市民の方を見るようになった。その背景には、キャンパス内では、自動車や自転車が原則、通行禁止[5]のため、安心して過ごしていただける場所として認識していただいているのかもしれない。

The University DINING

また、「The University DINING」は、公益社団法人日本不動産学会の2016年度（第23回）業績賞を受賞[6]した。コンセプトだけでなく、食堂の運営への学生の積極的な参加、地域の交流拠点としての機能、また、住宅地に立地する大学の不動産活用としても高く評価していただいた。2017年６月１日に行われた表彰式では、国土交通大臣の石井啓一氏の臨席のもと、日本不動産学会の三井康壽会長より本学の原田嘉中理事長へ表彰状が授与された。さらに、「The University DINING」は、グッドデザイン賞、第22回千葉県建築文化賞優秀賞も受賞し、また、多くのメディアで紹介いただき、多方面から高い評価をいただいているが、今後、地域の交流拠点としてさらに機能するよう取り組みを進めていきたい。

授賞式

≪第３回フォトロゲ in いちかわ≫[7]

2018年３月31日（土）に開催予定のこのイベントは、「防災フォトロゲ～楽しく走り、正しく知って、しっかり備えよう！」をテーマとしたフォトロゲイニングである。フォトロゲイニングとは、決められた時間内に地図をもとにチェックポイントを回り、写真を撮影することで得点を集めるスポーツである。今回は、市川市の地理や歴史を参加者の方に知ってもらいながら、防災についても意識していただくことを目的とし

4　公開講座については、http://www.cuc.ac.jp/special_news/project_news/i８qio0000002p５qg.html　を参照のこと。
5　本学では、校門の外側に駐車場、駐輪場（一部、校門の内側にも駐輪場）を配置し、校門前には配達等のために許可を受けた車両以外の進入を禁止する旨の表示をしている。
6　業績賞の受賞については、http://www.cuc.ac.jp/bureau/dining/news/news_list/20170602.html　を参照のこと。
7　「第３回フォトロゲ in いちかわ」については http://www.cuc.ac.jp/social_contribution/news/2017/photoroga0331.html　を参照のこと。

ている。

このように「The University DINING」やフォトロゲは、常日頃の地域の交流拠点としての大学、開かれた大学、地域と連携する大学としての施設や取り組みであると同時に、次のような防災拠点として大学が機能するための取り組みでもある。

フォトロゲのポスター

3 地域の防災拠点としての大学

千葉商科大学が立地する市川市国府台地区には多くの大学、高校、病院、運動施設などの教育機関や医療施設、市民生活に欠かせない機関や施設が集中している。これらの機関がそれぞれの専門的な機能や施設を活かし、また、大きなスペースを活かすことによって、災害発生時には、避難所として機能することが期待されている。さらに、国府台地区は海抜が約20ｍの高台であり、災害時に強いという点でも期待されている。

以下では、２つの具体的な取り組みを紹介したい。

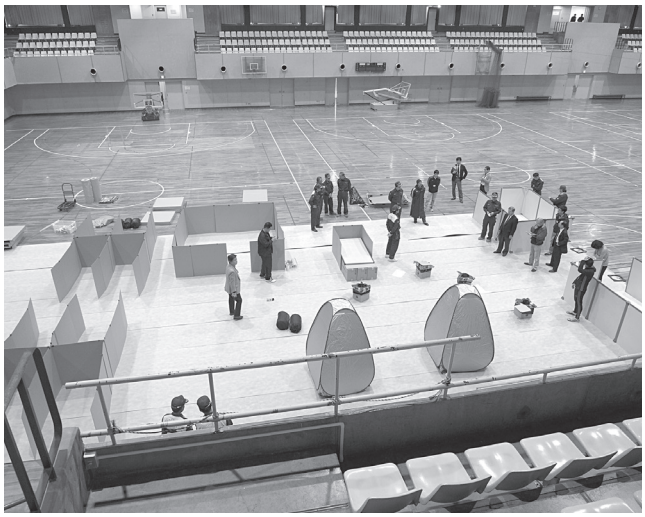
≪小岩－国府台ウォーキングイベント≫[8]

2017年７月15日（土）に行われたこのイベントは、万が一、江戸川が氾濫した際に、高台の国府台地区に避難できるよう、災害時の対応を意識し、避難経路を確認しながら、さらに、地域の文化・地理・環境について知るきっかけになるように実施された。本学と江戸川区は、2017年２月に防災に関する基本協定を締結しているが、このイベントは、この協定による連携事業でもある。当日は、市民、大学関係者、江戸川区職員、メディア関係者も含め、90名を超える参加者となった。JR小岩駅近くの「かるがも広場」から、本学まで歩き、大学到着後は、学生食堂「The University DINING」において、カフェを楽しみながら、意見交換を行った。

≪避難所開設検証会≫

2017年11月６日に、市川市と合同で避難所開設検証会を実施した。本学が災害に備え備蓄している物品の確認・搬出・移動をし、避難所マット・プライベートスペース・段ボールベッド・組み立て式トイレなどの組み立て・設置などを行った。さらに、意見交換会を行い、課題や今後の取り組みについて、議論した。物品を保管している防災倉庫から、災害時に避難所となる予定の体育館までの搬入距離や所要時間、物品の移動の際の課題、防災用品の組み立て設置の難易度、所用時間などをリアルに把握することができた。

今回の検証会で明らかとなった災害に備えた準備・対策、災害時の対応について、今後、検討を重ね、万が一の際には安心できる避難所として機能できるよう取り組みを進めていく。



避難所開設検証会

8　ウォーキングイベントについては、http://www.cuc.ac.jp/social_contribution/news/2017/i８qio0000002revy.html　を参照のこと。

4 国府台コンソーシアム[9]

2017年12月11日に市川市国府台地区にある教育機関や医療機関が連携し、地域との連携事業を推進していく「国府台コンソーシアム」が設立された。国府台地区とその周辺には、本学ならびに本学の付属高等学校、和洋女子大学、和洋国府台女子中学校高等学校、東京医科歯科大学教養部、千葉県立国府台高等学校、市川市立第一中学校、市川市立国府台小学校、筑波大学附属聴覚特別支援学校、国立国際医療研究センター国府台病院といった教育機関と医療機関がある。これらの機関に地元の市川市が加わりコンソーシアムを結成した。それぞれの専門性や特徴を活かし、互いに連携し、地域に貢献していくことを目的としている。会長には、本学の原科学長が、副会長には和洋女子大学の岸田学長が就任した。また、設立総会では、本学の原田嘉中理事長による「国府台コンソーシアム」の前身とも言える昭和40年台に活動していた「国府台文化懇話会」に関する講演と、市川市の笠原危機管理監によるご講演「災害対応と国府台地区の関係機関への期待」も行われた。これらの講演により、国府台地区のこれまでの連携の姿とこれからの連携に関するビジョンが明らかになった。

このプロジェクト３が目的としている、日常の地域交流・地域連携の拠点としての大学、防災拠点としての大学といった役割を果たせるようになるためにも、本学だけで取り組むのではなく、近隣の教育機関、医療機関と連携し、互いに協力し合って、効果的に取り組んでいきたい。

国府台コンソーシアム

5 まとめ

この学長プロジェクト３「安全・安心な都市・地域づくり」は、非常に広範囲にわたるプロジェクトのため、紙面の都合上、すべてをご紹介することはできなかったが、あと、２つだけ紹介したい。

地域と連携し、地域に開かれた研究・活動の拠点としても役割を発揮すべく、学内はもとより、一定の条件のもとで学外の方の地域に関する研究を助成する「地域志向研究助成金制度」[10]を設けている。

自動車事故を少しでも減少させ、安心できるまちづくりに貢献すべく、最高速度を制御するソフトカーやソフトモビリティ・ゾーンのプロジェクトにも取り組んでいる。

これまで紹介させていただいたプロジェクト３の取り組みは、そのテーマである「安全・安心な都市・地域づくり」に多角的に取り組む大学の姿を表しており、また、今後ともこれからの社会に必要とされる大学となるべく尽力したい。

同時に、本学だけでは、このような目的を実現することは難しい。近隣にある教育機関、医療機関との連携、地元自治体との連携、そして、地域住民の皆様との連携によって、はじめて実現できるものである。みなさまのお力添えをいただけるよう、お願い申し上げて、このプロジェクトの紹介を終えたい。

9　国府台コンソーシアムの設立総会については、コンソーシアムの会長となった本学の原科学長の「学長コラム」http://www.cuc.ac.jp/magazine/p-column/news/2017/i８qio0000002wt91.html　を参照のこと。

10　地域志向研究助成金制度については、http://www.cuc.ac.jp/social_contribution/kenkyujosei/index.html　を参照のこと。